

笹岡啓子 ■ Kanko-5

「齋場御獄」と書いて「せーふあうたき」と読む。世界遺産にも登録されている現役の霊場。沖繩へ向かう機内ビデオで「絶対に行ってみてください」とレポーターの女の子がいうのを見て、素直に行ってみることにする。ひんやりとした拝所の趣に幽玄な空気は確かに残っているけれど、「順路」と書かれた看板や舗装された拝所までの道立派な観光客用の駐車場はちょっとしたテーマパークのようで、それはどことなく北の霊場、恐山の様相に似ている。恐山

撮影データ…ハッセルブラッド 503CXI・プラナー80ミリ F2.8・フジカラーNewプロ400

も現役の霊場。しかるべき時期には厳かな場になるのだろうけれど、いわゆるシーズンオフには観光客用に風車がからからと回り、岩盤のあちこちからはおどろおどろしく湯気が立ち上る。もちろん順路の看板は必須でそれに従って行けば、こちらにも「絵に描いたような」光景が用意されているのだけれど「本場の場所」を見ることはなかなか難しい。

● 今月の表紙は久しぶりの女性ポートレートとなりました。モデルになったいたいた小野寺愛さんは、本誌には数年前からたびたび登場しているおなじみのモデルさんです。初めて登場したときはまだ高校を卒業してばかり。キュートな少女っぽい笑顔が印象的でしたが、そのキュートさのままちょっと大人っぽく感じられた今回の撮影でした。ちなみに手にしているのはトイカメラで知られるトミー（現タカラトミー）のデジタルXiaoyue（シャョウステイル）TDG-801。1万円ちょっとで買えるトイカメラですが、5メガピクセルの高画素機です。トイ



デジタルカメラは30万画素もあればという時代からは隔世の感です。● 野寺正典さんのインドの奇祭を撮った作品は今月抜群の迫力でした。口絵はまっ赤っ赤でしたが、ご本人よりその直前の状況も見せたいというリクエストがありました。モノクロで分りにくいかも知れませんが、掲載しておきます。赤い粉が落ちてくる前は、黄や緑など原色鮮やかな衣装を女性たちは身に着けています。(M)



流 / 竹内敏信 (たけうち・としのぶ)  
1943年愛知県生まれ。名城大学理工学部卒。愛知県庁勤務の後、フリー写真家。写真展多数。主な写真集に『花風景』『天地』『四季のカメラワーク』。日本写真家協会副会長、日本旅行作家協会会員、日本写真芸術専門学校副校長、東京工芸大学講師、現代写真研究所講師。



存在と時間 / 春日広隆 (かすが・ひろたか)  
1946年長野県生まれ。カリフォルニア大学および大学院卒。国内外で個展を開催。デジタル高品位モノクロ写真プリントの普及活動も行っている。日本写真家協会JPS/2004展優秀賞受賞。日本写真作家協会会員、全米写真家協会会員、ニューヨーク市SOHO Photo Gallery 会員。



カンボジア 希望の川～子供たちの詩～  
三留理男 (みつるみ・ただお)  
1938年朝鮮沙里院生まれ。日大芸術学部中退。アジア、アフリカを中心に取材を続け、第1回土門拳賞を受賞。第4回アジア・アフリカ賞受賞。第9回アジア・太平洋賞特別賞受賞。著作多数。



バリ・モンマルトル  
平カズオ (たいら・かずお)  
1948年東京生まれ。日大芸術学部写真学科中退。74年5月大日本印刷CDC事業部撮影課を経てフリー。70年より東京・ベルギーにて個展多数、昨年よりベルギー・ブリュッセル在住を経て、昨年9月末、10年の滞在を経て帰国。



うそり / 西村文一 (にしむら・ぶんいち)  
1958年岩手県生まれ。大学卒業後、民俗学者・谷川健一氏に師事。また現代写真研究所でドキュメンタリー写真を学ぶ。以後、フリーランス。主な展示に「うそり」「北緯40度」「北の群青」日本地名研究所専任・現代写真研究所講師。



TOKYO WALKER  
太田威重 (おおた・たけしげ)  
1944年東京都生まれ。桑沢デザイン研究所インダストリアルデザイン科卒。主な写真展に「都市点描」「東京在住猫」「東京エンターテインメント/余韻」。主な写真集に「東京一猫もよう」「東京在住猫」「東京まんまんなか」。



ホーリー～ヒンドゥー教の奇祭  
野寺正典 (のざき・まさおき)  
1937年満州国ハイラル生まれ。早稲田大学大学院理工学研究応用物理学専攻課程修了(理学博士)。三井光学、三菱製紙で研究開発に携わる。98年から本格的に写真活動を開始。主な写真展に「技術に生きる町工場の職人達」「漆器の里」。



連載■Kanko[5]  
笹岡啓子 (ささおか・けいこ)  
1978年広島県生まれ。東京造形大学卒。'01年より自らが参加するphotographers' gallery (東京)を中心として作品を発表。小冊子「HORIZONS」を刊行(自主制作)。写真展多数。



遠景 2004～2005  
成田アキラ N.P.F. (なりた・あきら)  
広告制作会社、現像所勤務後、フリーとして活動。広告、出版、音楽関係などで活動。写真展に「彼と彼女と二十歳前」。紙面のみでの作品発表形式作品「遠景」シリーズ98年から。



連載■ライカで散歩[17] サクラ  
北井一夫 (きたい・かずお)  
1944年中国鞍山生まれ。日本大学芸術学部写真学科中退。日本写真協会新人賞、第1回木村伊兵衛賞受賞。写真展多数。主な写真集に「1970年代NIPPON」「1990年代北京」。



春、車窓から / 内野雅文 (うちの・まさふみ)  
1973年東京都生まれ。東京造形大学造形学部デザイン学科デザイン専攻1類写真コース卒。主な写真展に「野ざらし紀行」「ケータイ 1996-2004」「信州にて」「カガミノナカ」「IDOLS」。写真集に「ケータイとカガミ 1996-2004」。



標(しるべ)～バス停にて[2] 菅浦  
柴田秀一郎 (しばた・しゅういちろう)  
1963年東京都生まれ。日本大学法学部卒。「現代写真研究所」第23期全課程修了後、竹内敏信ゼミ在学中。第11回酒田市土門拳文化賞・奨励賞受賞。現在、日本化薬株式会社・知的財産部勤務。

※口絵ページ中にあるコメントは特に注のないものは作者によるものです。